

開催地名：福井県あわら市	
開催日時	令和元年8月18日（日） 13：30 ～ 15：00
開催場所	中央公民館 大ホール
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	市内自主防災組織、関係機関 約 200 名
開催経緯	市内の自主防災組織の設立状況は8割を超えるに至ったが、自主防災組織として具体的な活動・訓練ができていない組織の方が多く、「具体的に何をしたらいいかわからない」という区が多い状況である。また、指定避難所の使用について、複数の自主防災組織が協力して一つの避難所運営委員会を設立し運営する必要があるが、その経験がない。今回の講演で、市内の防災リーダーに対し、東日本大震災の体験談、教訓を通じて、自主防災組織の具体的な取り組み等について教えていただきたい。
内容	（１）防災の基本とは 防災の基本は、立場や役割に関係なく、自助・共助・公助と全ての人に関係するものであり、全てに言えるのは災害への危機感である。「心配ない、あり得ない、大丈夫、まさか」と思うのが人間である。防災は危機感と想定以上の備えが基本である。様々な自然災害が発生する中で、全ての責任者には、最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることをお願いしたい。 （２）危機感と想定以上の備えは全てに関係 ・危機感：相手は自然災害。「まさか」が起こりうる。これが災害である。 ・想定以上の備え：想定外という言葉は単なる言い訳である。 ・自助：各家庭においての防災は災害の知識・備え・共助への理解と努力。 ・共助：地域において、公助に頼らず共助で解決して行く。 人間には考える力、行動する力がある。自然災害に勝つには、危機感と想定以上の備えが必要である。 （３）平成 18 年から行われた 5 ヶ年の活動 災害に勝つために平成 18 年からありとあらゆる準備を行ってきた。まずは町内会の企画と計画で防災マップ、防災マニュアルこれらの作成を重点的に行い、管轄の仙台市太白区茂庭台 5 丁目全 269 世帯に配布した。そして、同じく地域において、消火班、救護班、救出班、避難誘導班、給食給水班、報告連絡班、警備班からなる自主防災組織もあわせて設立した。これらは前年の班長が自主防災組織委員になったうえでそれらの役割についてもらった。持ち回りのため、5 年も経てばほとんどの世帯の人々が経験することになる。従って、災害発生時にはその班員がいなくとも、経験者が担えるようになった。それと並行して、毎年

5、6月には防災勉強会も実施し、町内地域において防災に関する意見交換も行った。それらの総仕上げとしてあえて勉強会の内容を忘れた頃（具体的には毎年9月頃）に総合防災訓練を行った。その防災訓練についても、昼に災害が発生した場合、夜に災害が発生した場合と交互に、地域全世帯の方が全員参加できるように日曜日の開催とした。さらには、平日の昼間に小・中高生を中心とした訓練も取り入れて、通常は働いていて自宅や地域にいないケースが多い大人を抜きにした想定まで取り組んだ。

また、毎年防災費を計上し、業務用無線機5台・ヘルメット・懐中電灯・ブルゾン・ゼッケン・救急用品・担架・車椅子・事務用品・飲料水・発電機2台、灯光機4台（ハロゲン広角）等、少しずつ防災備品の購入を進めた。

（４）「地域防災」

地域防災の地域とは地域内全てを言う。家庭保育園・保育園・幼稚園・学校・消防・警察・商店会・商工会議所・青年会議所・医療機関・高齢者施設・企業など全てが地域防災に関係する。また、地域防災は家庭から始まるため、家庭での備えをお願いしたい。建物の耐震・室内の点検・外回りの点検・防災用品の備蓄、地域防災への理解と協力、地域防災訓練への家族全員で参加を是非意識していただきたい。



開催地より

東日本大震災の経験談とともに、震災以前に実施していた災害に対する準備についてや、避難所への避難誘導や運営に関することをわかりやすくお話しいただいた。今後の地域の活動（共助の仕組み）や自主防災組織の活動に大変参考になると思う。